

# 供養の大切さ

## すべての人が幸せを求める

年輩の人も若い人も、誰でも幸せになることを願います。

ところが、間違っただけの行為をする人たちは全ての人に授かっているその尊い判断能力や判断基準を使わずに、誤った方を選んでしまっているのです。

つまり運勢が良くなることを願い、幸せを追い求めます。

人は運勢を良くするために、たくさんの能力や智慧が備わっていますが、それらの中で一番大切なものが、「正しいか、間違っているか」を即断できる尊い判断能力または、判断基準であります。

その尊い基準で判断すれば、容易に「正しい」方を選択できて運勢は良くなります。

犯罪を行う人達、問題を起こす青少年、またいじめをする子ども達が、「犯罪」や「人に迷惑をかけること」や「いじめ」をするのが「良いか、悪いか」と考えるならば、それら「悪いこと」だと直ぐに分かります。

## なぜ誤った道を選ぶのか

犯罪を起こす人、問題を起こす青少年にも、その正しい判断基準が授かっています。それなのに間違っただけの方を選択するのは、その尊い判断能力が使えない状態になっているからです。

人が存在するにはご先祖様方、曾祖父母様、祖父母様、ご両親、それらの方々が亡くしている子どもさんや水子さん達等の存在があって、現在生存している人たちがいます。

それ故、亡くなっている方々は生きている人達の基盤(土台)と同じです。

基盤がしっかりしていなかった為に、ご両親や本人等がご先祖様、亡くなっている方々の供養をしていなかったため、生きている人がその上に真っ直ぐに立つことができません。

それゆえに判断能力(判断基準)を正しく使えないということが起きてくるわけです。

## 生き生きとした良い人生を

また、人間の生命力は神仏・ご先祖様からいただいています。

それゆえ親先祖、亡くなっている方々の供養を丁寧にする事によって、ご本人やご家族が生命力を強くいただくことができるのです。

ご先祖様・家系の亡くなっている方々のご冥福を祈って仏前での、毎日の勤行（お経を誦経する）朝晩15分ずつ、またはそれ以上の時間をかけてご供養していくことは、ご本人はもちろんご家族が神仏・ご先祖様から生命力を強くいただくことができます。

元気がなかった子供さんに活力が湧いて来て、元気がでできます。

そして子供さん達の寄って立つ基盤がしっかりして真っ直ぐ立つことができ、正しい判断能力が使えるようになります。

## 水子の供養について

水子とは、流産、死産、中絶および早逝した子のことを言います。

水子供養に際して先ず考えなければならないことは、水子の霊も、親、あるいは祖父母や先祖の霊も、現に生きている人の霊も、霊という点では同じに尊い存在であるということです。

しかし、親や祖父母や先祖の霊魂と水子の霊魂との違いは、親や祖父母や先祖の霊魂は、それぞれ因縁相応の生涯を送って、現世での一生を終えた霊魂です。

それに対し、水子の霊魂は、流産、死産の場合は、親や祖父母の不行き届きにより、中絶は親の拒否により、早逝は親や祖父母等の因縁により命を失った霊魂です。

それゆえ、水子の霊魂は単に供養すればよい霊魂ではなく、水子にしたことについて、親が心からお詫びして供養することが必要です。

例えば中絶した子に対して、「供養してあげるから、霊界で幸せになって下さい」と祈っても、中絶された霊魂は「何を言っているのだ、勝手に私を殺しておいて、幸せになれとは。私は決して許さない」と言うでしょう。

親の方に中絶しなければならないどのような理由があったにせよ、そして、その理由を現に生きている他の人が認めたとしても、たった一つしかない命を失わせられた霊魂は、親を許さないでしょう。

この世に生まれたかった執念と、親に対する憤りが執着となって、水子の霊魂は霊界にも入れず中有に迷い苦しんでいるのです。

この霊魂を救う（成仏・再生させる）には、先ず親のお詫びを、徹底しなければなりません。

「どのような理由があったにせよ、たった一つしかない命を奪い済まなかった。

産んでさえいれば、子供が可愛くない親はいないのに本当に済まなかった」と心からお詫びすることです。

そして そのお詫びと共に、水子の靈魂に対して産んだ子どもと同様に愛情、労力、金銭、時間をかけて、養育を拒否したことに対する償いを、しなければなりません。

親の愛情が無ければ、子どもは素直に育ちません。

子どものおむつの取り替えるだけでも、親は大変な 手間をかけています。

また、衣、顔、教育などにお金をかけます。

これらのことを一つもしてあげなかった 水子に対する供養の方法を、箇条書きにします。

お詫びと供養のためによく読んで 実行して下さい。

1、妊娠中絶した水子の供養について、第一に心がけるべきことは、水子によくお詫びし、償いをしなければならないということです。

流産や出産後の死亡と違って、闇の子の場合は親が積極的に出産を阻止したのですから、お詫びをせずただ供養しただけでは、水子は承知しないのです。

親が中絶をすると決めた時の胎児の驚きと悲しみは如何ばかりか。

しかもそれを声に出して訴えようがないのです。

幾人も中絶した親の子に、「お父さん助けて！お母さん助けて！」というような悲痛な悪夏を見る子や、夜中に泣いて泣き止まない子、或いは「こわいよ、こわいよ」というような悪夏を見る子がよくあるのは、中絶された闇の子の悲しみや憤りが見させる夏です。

2、供養の方法としては、先ず自宅の仏壇に地蔵尊を祀り、それを水子のお位牌代わり、靈魂の拠り所を かねるものとして、お詫びし、供養するとともに、その地蔵尊にお願いして、水子を靈界でお導き下さるよう に祈ることで。

この仏壇用の地蔵尊は当方で頒布していますが、仏具屋などで購入したものでもよいです。

3、仏壇にお祀りする地蔵尊は水子のお位牌代わりを兼ねたものですから、地蔵尊にお許しを願って、ご先祖や親の位牌よりも下段に安置するのがよいです。

向かって左右いずれでもよろしいです。

4、次には、自家の墓地や供養に適した地に石の地蔵尊を建て、それを水子の墓石として供養することです。

5、水子は幾人あっても、その家の初代の人の子、二代目の人の子、三代目の人の子というように、直系の人の子である場合、または同じ夫婦間の子である場合および同じ1人の母親、または同じ1人の父親の場合は、仏壇に祀る地蔵尊も、墓地や地蔵寺等へ建てる石の地蔵尊も一体でよろしいです。

但し、同じ母親の子でも、先夫の子というように戸籍が違う子は、別にしなければなりません。

然し現在の夫に打ち明けて了解を得た場合は、連れ子をして結婚した場合と同じですから、その家のご先祖様にも申し上げてご了解を願い、一つの地蔵尊に合祀してもよいです。

なお、同じ姓でも兄の水子と弟の水子は、一緒に祀れません。

6、仏壇には、毎日ご先祖様にお仏飯(ご飯)やお茶・お水をお供えするのを、水子にもお分け下さるよう

お願いし、そのことを水子たちにも告げておくことです。

今まで供養していなかったならば、しばらくの間は丁寧な、水子にも別にご飯とお水をお供えするとよいです。

また、仏前では、般若心経や真言宗佛前勤行次第を読誦して、水子の冥福を祈ること。

般若心経を写経して、水子へのお詫びと供養を続けると大壽よいです。

7、水子たちに養育の出費をしなかった償いとして、毎日水子一人につき100円ずつ仏壇に供えるとよいです。

但し、何回も中絶した人の場合は、毎日金額を多くお供えするのは大壽でしょうから、そういう方は300円でも500円でも、そのご家庭の都合にて加減されるとよいです。

これは水子たちに、出生後の愛育をしなかったことに対するお詫びとして、愛情を込め、お供えするべきで、毎月一回、1万円供えれば面倒がなくよいなどと、考えてはいけません。

その仏壇に供えたお金は、勝龍寺参拝費とか、四国遍路、百観音巡礼、お寺への寄付など、水子の供養のための費用にあてるのがよいです。

8、水子供養に気づいたのを機会に、一層深い信仰に入って菩薩行に努め、毎日少なくとも善い事を一つずつ心がけること。

また、四国遍路や百観音巡礼などを心がけて、水子たちへのお詫びと、供養を徹底するのも良い方法です。

十分過ぎると思うほどに供養をすることが大切であります。

9、流産児や死産児、或いは生まれてすぐ死んだという子は、中絶して命を絶ったのとは違いますが、その子達も水子ですから、中絶児同様に水子供養をするのがよいです。

10、胎児中絶の因果の深刻さを考え、その機縁で深い信仰に入り、十分にお詫びと供養を続けている家庭は、心臓病が治ったり、子供の反抗やノイローゼが治ったり、その後に良い子が授かったり、或いは幸運が続くなどしてご家庭が栄えるなどの実例が幾らでもあります。